

令和4年度熊本市エイズ総合対策推進会議議事録（要旨）

開催日時：令和4年（2022年）10月4日（火）午後2時～4時

開催方式：Teams を利用したオンライン方式

出席委員：19名（敬称略、○は新任委員）

松下修三、前田ひとみ、久保昌子、○土井賢、田中弥興、丸目新一、○永野智子、
椎葉浩亮、夏木良博、○安藤真理子、梅田隆弘、○宮崎紀男、瀬田朋子、宮崎奈那海、
吉村譲二、川田晃仁、○林田賢一郎、高山いくこ、こうぞう

欠席委員：1名（敬称略）

柿田将博

次第

- 1 開会
- 2 所長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長・副会長選出
- 5 会長挨拶

熊本大学の松下でございます。本日は、新任の先生方も参加していらっしゃると思いますので、後ほどの講演では、エイズの基礎的なことからお話を申し上げたいと思っております。私は、エイズウイルスが見つかった当初からこの感染症に関わっているものでございます。大学病院におきましては、感染免疫診療部の中田先生、中央検査部の中村先生、輸血細胞療法部の内場先生とともに、患者さんの担当をしております。特に中田先生には、多くの症例を担当していただき、本来は同席していただきたいところですが、コロナ対応のためむづかしいということでした。私は現在特任教授という立場ではございますが、まだまだ頑張れるうちは頑張りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。それでは、前田先生、よろしくお願いします。

熊本大学の前田と申します。松下先生をサポートしていけるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

6 講話「エイズの現状と課題」

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 臨床レトロウイルス学分野

特任教授 松下修三氏から「エイズ/HIV 感染症の基礎、発生動向、世界の最新情報」についてご講話いただいた。

講話「HIV 患者の療養支援と熊本市の課題」

熊本大学病院看護部副看護師長 高木雅敏氏から「熊本県の拠点病院の現状、熊本大学病院での診察状況、患者が抱える問題と療養支援」についてご講話いただいた。

(質疑応答)

【こうぞう委員】

高木先生の御紹介の中にあつた出前講座、熊大の医療チームでされている出前講座は、どういう組織・団体を対象にとか、何名以上のときにとか、そういう要件・条件はどこかで公表されたりしていますか？

【高木先生】

特に要件とかはないんですけれども、当院の地域医療連携センターが中心となって、窓口になり、いろんな施設に研修を行っているものです。特にお金も要りませんし、こちらで、時間とかを調整してさせていただくので特にこれといって、制限はありません。

【こうぞう委員】

ありがとうございます。ホームページ上で連絡先とか書いてありますか？

【高木先生】

当院の地域医療連携センターのホームページに載っていたと思いますので、そちらに連絡していただくと大丈夫です。

7 議事

議事進行：松下会長

資料に沿って、事務局（感染症対策課）から説明

- (1) エイズ及び性感染症の発生動向
- (2) 平成30年度～令和4年度 HIV 感染および性感染症の予防対策（計画）
- (3) 熊本市エイズ対策に関する令和3年度報告及び令和4年度計画

【松下会長】

感染者報告の中の梅毒が増えているという件について、色々な統計とか出ておりまして、最近の梅毒の陽性とH I Vの陽性がリンクしていないということが今言われているわけですが、先ほどの話ではH I V陽性の方は9割の方は梅毒の検査を受けているという話だったと思いますが、逆に、梅毒の検査を受けた方のうち、どのぐらいがH I Vの検査を受けてるかというモニタリングはしていますか？

【事務局（感染症対策課）】

熊本市保健所では、H I V検査を受けられた方は、梅毒の検査も一緒に出来ますが、梅毒の検査のみという項目はないので、H I V検査を受けられた方の9割の方が梅毒も一緒に受けられているという状況です。

【松下会長】

医療機関からの梅毒の報告が増えているという話がありましたが、その方々は H I V 検査を受けているかどうかについてはどうでしょうか？

【事務局（感染症対策課）】

正確な数は計上していないんですけれども、梅毒の発生届をいただいている中で、H I V の検査をされていない方のほうが多いのが現状です。

【松下会長】

昨年の 10 月に、順天堂大学の内藤先生が出された論文では、レセプトレベルでの調査研究ですが、HIV がわかる前に梅毒陽性と診断された症例 100 人中 HIV の検査が行われたのは 17 % に過ぎなかったと報告されています。梅毒が陽性と分かった時点で、H I V 検査が行われていれば、もっと早期発見できた症例があったとおもいます。一方、最近の梅毒の急増に関しては、H I V 感染者での感染の増加ではないという論文を出されていて、まだわからないところも多いと思いますが、MSM の方々での梅毒の感染予防は案外できているのではないかと考察されていました。ただ、やっぱり梅毒に感染している症例には、HIV 検査も受けていただくように、梅毒をやっている医療機関に要望したほうがいいと思います。

【事務局（感染症対策課）】

ご報告の中で検査委託について少しお話ししましたが、やはり梅毒の発生届を出していただいている医療機関で、一緒に、H I V の検査が無料でできるようにしていくと、検査件数の増加が見込めると思います。あと、梅毒については松下先生もおっしゃられていたように、MSM の方だけではなく、女性もかなり増えてきており、保健所にお問合せいただく中でも、女性の方で梅毒の感染を気にされて、検査出来ますかとお問合せをいただくことも多いです。

【松下会長】

医療機関への検査委託は非常に大事なことだと思います。リスクのある方々の中には、医療機関へは行くけれども、保健所に来ない方もいらっしゃいますから、予算のことがあるのでどのくらいできるかわかりませんが、速やかに、できるだけ大規模にやっていただければと思います。それが普通になっていくと、そこで検査をする方が増えていくと思いますし、将来的には PrEP が多分そのような状況になっていきますので、今よりもニーズが増えると思います。

【前田副会長】

2 点あるんですけど、一つは、今やっぱり対面が出来なくなって、学校の中でも、なかなか教育が出来ないということで、恐らく、学校で対面教育が出来なくなったとき

に、少なくなるのが性教育関連の授業なのかなと思うんですけども、そうなった時に、教育関係として、DVDを市内中学校に配布したっていうことがあるんですが、これまで派遣されてた先生がいらっしゃったと思うんですけど、そういうものとの関係とか、あと、例えば令和4年度は、オンラインでの出前講座を実施する予定ということなんですけど、規模がどのぐらいあるのかっていうのが1点ですね。

もう一つは、この資料7のところに、ウェブでの検査予約開始してからということで、令和3年4月からと、令和4年2月からのグラフがあるんですが、具体的な人数がわかれば教えてください。

【事務局（感染症対策課）】

出前講座については、昨年度、一昨年度に市内の公立中学校にオリジナルDVDを送付しましたが、先生方が、DVDを使って授業をされるのもなかなか難しいとのことで、やはり以前のような出前講座をしてもらえないだろうかというご要望を、実際に今年度も受けております。本日もオンラインで、会議を開催しておりますが、社会全体がオンラインの利用に慣れてきている状況もあるので、現在、オンラインで出前講座を行う準備を進めています。準備が整いましたら熊本市内の全ての公立中学校に御案内を出す予定です。

また、泌尿器科や産婦人科の先生に、市内の高校に行っていただき、講演をしていただく講師派遣事業については、令和元年までは実施していたのですが、コロナウイルスが発生してから中止しております。ただ、各高校から直接、医療機関へ依頼をして講演を行っていただいているとお聞きしております。

もう一つの資料7の具体的な人数ですが、細かい数字がすぐに出ないんですけども、令和4年2月から令和4年8月が大体350人ぐらいで、令和3年4月から令和4年1月は、400人ぐらいです。大まかな数字で申し訳ございません。

【前田副会長】

わかりました。やはり令和4年からの数が半年しかないけど、数が増えていますね。あと、感染行為の比較のところで、異性間性行为が、やはり令和4年から増えているので、この男女比が変わらないっていうことは、女性が受けやすいという状況なのかなと思いました。だから受けたい人が受けられる体制なのかなと感じました。

【松下会長】

令和3年度の報告、令和4年度の計画の中で、即日検査を火曜日から木曜日の9時から11時に、それと特例検査をやっていますが、実はこの前電話で大学病院では即日検査を受けられませんかという問い合わせがあったんです。保健所の枠がすぐに埋まるらしくて、それからスケジュールが合わないということがあると思います。午前中だけに限定されていますので、これを何とかもう少し拡大できないものでしょうか？

今のアンケートの回答のまとめにもありましたが、すぐに結果が分かるのはいいとありましたよね。ですから即日検査の枠を増やすことは出来ませんかというのが私の一つ要望です。

【事務局（感染症対策課）】

平日検査と、休日検査を行っておりますが、やはりコロナウイルスが発生する前に比べると、休日検査であっても、予約制で人数を制限して実施するので、受検者数がのびないという状況はあります。例年、6月と12月に休日検査を行っていますが、今年度は12月に例年どおり休日検査を行うか、もしくは休日ではなく、平日に1週間、午前と午後に検査を行い、受付枠を拡大する特例週間のようなものを設けるなど、世界エイズデーに合わせてどのような体制で検査を実施するか、現在、検討中です。

【松下会長】

検査機会をとにかく敷居を低くして増やしてほしいというのが要望です。私からの。ですから、実際そういう要望をこちらに直接問い合わせてくる方もいましたので、基本的には保健所を中心として検査、即日検査は保健所でやりますという話はしています。

【松下会長】

時間が押してきておりますので、本来ならば先生方それぞれに活動状況とか、感想とか色々なことを伺うべきところですが、なかなか時間がございませんので、予定としては16時が終わりになっておりますのでこれで、セッションを一応終わりにしてもよろしいでしょうか。また、委員の先生方からご意見、ご要望等ありましたら事務局の方に、お話しいただければ、その要望を活かした取り組みが、計画できるものと思います。

今、実は感染者、HIVに感染している人で治療下にある人は、いわゆる慢性疾患に近づいております、特殊な感染症から一般の慢性疾患に近づいてきている状態です。即ち、HIV感染症/AIDSは、特殊な診療から一般の病院の方に、すぐにはいかないにしても、そのように変わっていく過渡期にあると思います。感染者の方々は、様々な事情もお抱えになっていきますので、そういうところは多職種で、立ち向かわなければなりませんから、一般診療所で見ると時代になりまして、少しずつそういうふうな協力体制をつくっていくことになるだろうと思っています。

一方、新規感染例は減っていないということをもう一つは覚えていただきたいと思います。日本全国の統計では、エイズは減っていると言う人もいますが、実際にはどうも、日本全国では100例から150例は、検査控えか検査難民となっているのではないかと考えられています。そういう意味では、数年後にまた発症例が増えるという現象が見える可能性もあると考えています。治療がこれだけ良くなっていますので、早く見つかって治療を受けるのが患者さん本人にとってもよいことですが、加えてパートナーへの感染も阻止されますので、新規感染が減ります。ここのところは何かの、「正しい知識の予防啓発」として、新たな取り組みが必要ではないかと思っています。「エイズ予防指針」の研究班で

一緒にやっている塩野先生のデータによると、知っている人はもう知っています。例えばU=Uにしても、2割方の人は知っていると回答する。だけどそれは2年前も2割でした。関心の有る一部の人々にはもう届いています。しかし、自分事として考えていない方々には届いていません。情報の出し方というか、コミュニケーションの方法として、何らかの新しい取り組みが必要だろうと思っております。特にやっぱり青少年、セクシャルにアクティブな方々、MSMの方々も含めて、どういうふうにこの情報を与えて、早く検査に行った方が自分の利益になることがわかっていただけるかということが大事ななと思っています。

もう一つ言いますと、コロナ禍でみんなが学んだことは、日本だけが良ければ安心というわけではなく、やっぱり世界と一緒にこの感染症とともに生きていかなければならない時代になったということです。先生方には是非、近いうちに実際にお会いして、このようなことについて、それぞれのお立場での議論とそれから正しい知識あるいはアップデートした情報を、広めていただく対策、対応をどのようにされているかについてお伺いしたいと思っています。ところでございます。

どうも長時間にわたりご清聴ありがとうございました。

8 閉会